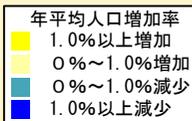
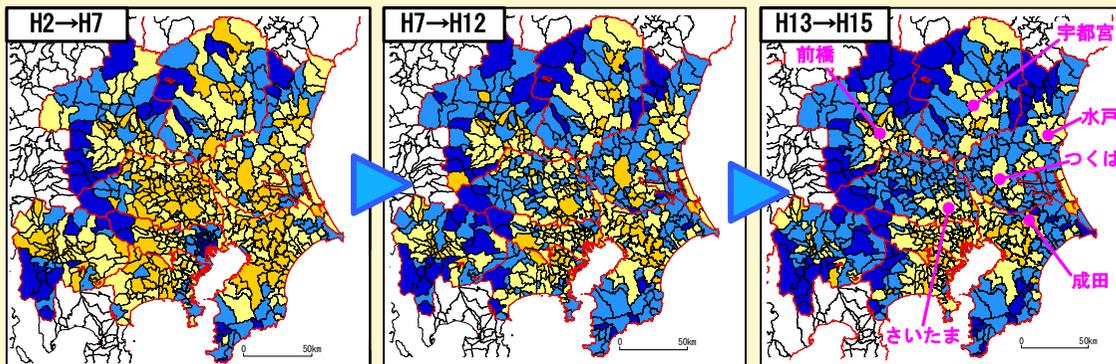


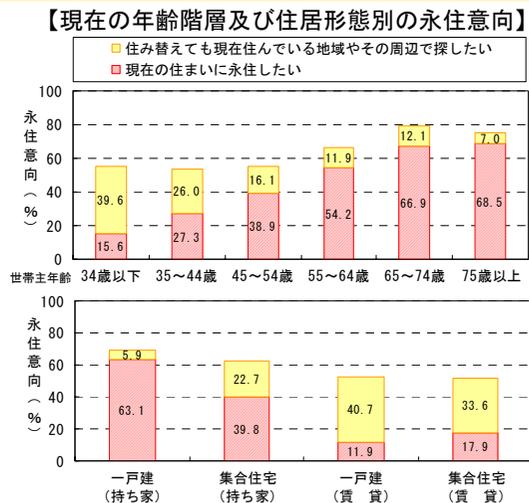
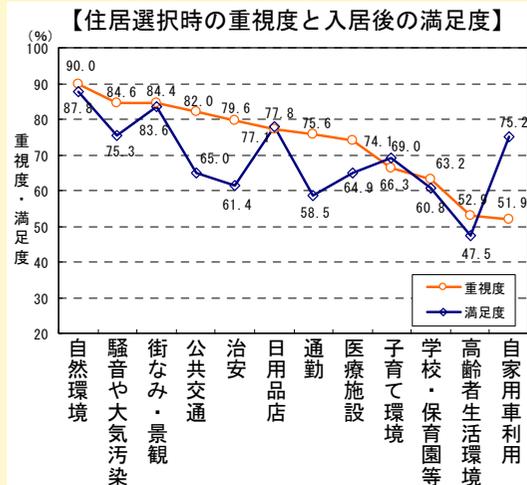
第1章 首都圏整備をめぐる最近の動向

(1) 首都圏の居住構造の変化

- 人口増加地域が東京とその周辺や県庁所在市等に限定される傾向。
- 人口増加市区町村の中を町丁別にみると人口減少町丁が約半数にのぼる。
- 都心部では人口減少から増加に転じている。

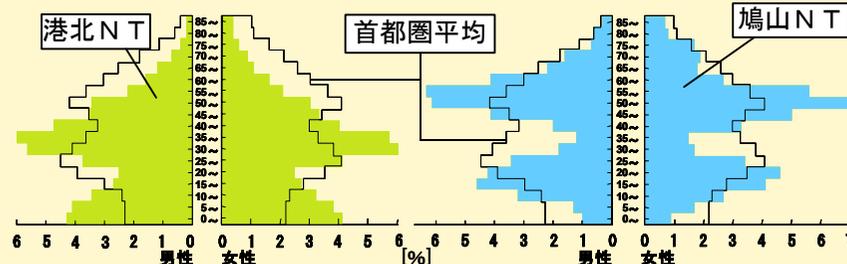


- 首都圏内の大規模ニュータウン（13カ所）について調査
- 住まい選択時には自然や街なみ・景観などを重視。入居後の満足度は交通の便や治安面のほかは選択時と同程度。
- 高齢者や持ち家に住んでいる人ほど現在の住まいへの永住意向が強い。



- 近年、高齢者人口比率は高まり、若年者人口比率は急速に低下している。
- 特定の世代の人口集中が顕著なニュータウンがある。

【ニュータウンの人口ピラミッドの例】



(2) 拠点都市の成長と連携

- 拠点都市では昼夜間人口比が上昇。
- 通勤・通学において、東京に近い都市では東京への依存が弱まっている。また、拠点都市同士の連携が進展。

【広域連携拠点間の通勤通学者数の変化(H2~H12)】

